

# PCフォーラム

J A土浦パソコン研究会会報 2016年9月号

事務局：J A土浦本店 営農部営農企画課

住所：土浦市田中1-1 電話：823-7001

ホームページ <http://www.dappe.com/>

ブログ <http://dappe.chiccappa.jp/japc/>

メールアドレス [japc1@dappe.com](mailto:japc1@dappe.com)



ぱそこんだっぺ

検索

定例会予定 今月のテーマ：簿記会計・写真処理

9月6日 ワードなど

9月13日 エクセル、簿記など

9月20日 デジカメ講座、画像処理など

9月27日 午後6時より 簿記講座

7時30分より エクセル、

ワードなど

10月4日 ワード、簿記など



皆さんこんにちは。今月はカメラに関する記事です。担当 宮崎

## デジタルカメラのいろいろな楽しみ方

今から22年前にカシオより発売されたデジタルカメラQV-10は撮影画像を液晶で確認でき、本体のサイズも当時のフィルムカメラ程度の大きさだったこと、パソコンに画像を取り込むことも容易だったことから実質的な「デジタルカメラ」の元祖です。しかしながら画質は25万画素！というレベルで「写真」としての写り方には遠く及ばないものでした。

その後、画質は年々向上していきます。庶民の手に届き、なおかつ「写真」の写りに遜色がなくなってきたのは2004～5年頃で、600万画素で2

0万円未満のデジタル一眼レフをキャノンやニコンが発売した時期です。

フィルムカメラの生産はもはやマニア向けを残して終了していますが最近ではマニアの間で、数十年前の古いカメラのレンズを最新のデジカメに取り付けてその写り具合を楽しむことが流行っています。

安原製作所という1999年に創立され当初はマニア向けにフィルムカメラ（レンズ交換式）を販売していたメーカーは今ではデジタルカメラで利用できる個性的なレンズを作っています。

顕微鏡を使わなければ難しかった高倍率撮影をミラーレスカメラを使って簡単に出来るよう開発された「NANOHA」や「ベス単」という100年前に作られた伝説的レンズからインスパイアされて生まれた「MOMO」などがあります。

パソコン上でソフトフォーカスやトイカメラ風などノスタルジックな加工をできるソフトウェアで加工してみるのも面白いですが、それでも「素」の状態でも面白い写真が撮れるというのは興味深いです。

数十年前のフィルムカメラ時代のレンズをマウントアダプターで最新のデジタル一眼に取り付けて撮影する場合、ピント合わせが自動ではできないのですが、昔のカメラはすべて手動でピント合わせしていたことを思えばそれほど苦にはなりません。それに「オートフォーカス」といっても完璧なも

のではなく被写体によってはまったくピントが合わないことがあります。

古いレンズでのボケ具合やソフトフォーカスな描写などはあれこれ試してみると楽しいものです。

右の写真は安原「MOMO」で撮影したのですが背景が全体的にふんわりとボケて、ピントの合った花が引き立っています。

下の写真はPC上でレトロな雰囲気をだすための加工をしたものです。普通に撮るばかりではなくこのような楽しみ方はいかがでしょうか。

デジカメ講座担当 宮崎

